



Subaru

男声合唱団

ニュース№555

‘16. 4. 14



# 圧倒的な迫力！ 感動のメッセージ歌曲の 叫び！ 「サム・トゥッ・ソリ大阪公演」 800人の満員の聴衆を魅了！！

4月12日



□4月12日(火)18:30よりエル・おおさか大ホールで「サム・トゥッ・ソリ Japan Tour2016」の大阪公演が開催されました。「サム・トゥッ・ソリとは日本語で“人生・意思・声”これを“生・志・歌”と解して心に響く熱いヒューマンサウンドを、ソン・ビョンフィを中心に集まつた韓国の実力派アーティスト（イ・ヘジン、キム・ヨン、キム・ウニン、ムン・ジノ）が奏でる特別編成ユニット。」「始まりは18年前の「日本のうたごえ50周年記念祭典」で初来日した「韓国民族音楽人協会」のミュージシャンの特別編成ユニット。その演奏は深い感動を呼び、民衆の思いを歌い上げる日韓音楽交流の契機となった。その後二度の日本公演をはじめ、数次にわたって来日。今回のJAPAN TOURでは、実力派ミュージシャン5人を揃えた新たな編成で、その初心ともいべき韓国民主化運動の熱い思い、人間らしく生きる力を歌い上げる。「同じ東アジアで暮らす市民こそ仲よくしよう！」そんな思いが広がることを願って、来日。全国11か所でツアー公演。（プログラムより）」大阪は7回目の中日（なかび）の公演で、ホール満員の聴衆の心をわしづかみにする圧倒的な迫力の感動のうたごえが会場に響きました。

No.555(1/3)



□プログラムの最後に合同演奏で「人間の歌」と「並んで歩かなくても」の2曲を、60名余りのうたごえの仲間が舞台に上がり、5人の「サム・トゥッ・ソリ」の歌手と一緒に、本並先生の指揮で合唱交流し会場は大きな連帯の拍手に包まれました。「昴」のメンバーも20名余りが参加しました。

## 「わしらの朝は海からはじまる」について

2016.4.6 明仁憲一

### 合唱団 昴 様

このたびは、昴合唱団におかれまして拙作をとりあげて頂ける由、まことにありがとうございます。

この作品は1985年に作曲しました。私のうたごえ創作第一作であり、思い出の残る作品です。宝木 実先生によると、元唄があり、明石の漁師たちが鯛漁の際に歌う唄で、民謡本に収録されていることです。無知な私は、佐伯 洋先生が口ずさんでいたメロディをうろ覚えで、歌い出しの低音部の掛け声を書いたと記憶します。Br.Bs.ともに3種類があり、Dominantでやや盛り上げてTonicaで収めていただくとよろしい。

作品については、宝木先生をはじめ、

① 前半の日本旋法より後半の西洋音階への転調が、強引で違和感がある。

② そもそも、だれに向かって歌っている作品なのかが定かでない。

とのご指摘を頂いています。

大阪湾は古来「茅渟の海」と称えられる豊饒の海でした。淡路島を時計回りにめぐる沿岸流がプランクトンや魚を循環させ、潮目の代わる紀淡海峡や明石沖に絶好の漁場をつくります。埋め立てで沿岸流がさえぎられ、水がよどみ水質が悪化して一時は「死の海」と化すも、現在は改善されているようです。詩に登場する「魚のわく海」は文字通りの表現であり、泉佐野近くまで行けばそれが実感できましょう。

そのあたりは、荒尾立夫著『吾がふるさと大阪湾』に記述されていますのでご覧ください。

よって②は、「大阪湾の環境に関わる人たち」に向かって環境保全を訴えることかと考えます。作品のテーマに関西新空港建設反対や泉州の乱開発反対も隠されていますが、労組役員の荒尾先生はともかく、詩人は明らかに書くことを身分上躊躇されたものと推察されます。その意味で、②が弱くなっているかもしれません。

① はその通りですが、この時点では力不足で仕様がなかったです。

以上、作品について気づくことを書きました。何卒よろしくお願ひいたします。

「世界の人々を憎しみの連鎖より解放し、民族の和解と連帯を求めるうたごえ作品を創り出すこと」については、引き続き追求してゆきたいと考えています。

（「わしらの朝は海からはじまる」を作曲された明仁憲一さんから「昂」のみなさんへ「メッセージ」が届きました。作曲家のこの曲への熱い思いが語られています。「昂ニュース」に載せました。）（編集子）

### わしらの朝は海からはじまる

作詞：佐伯 洋 作曲：明仁憲一

おい わしの胸をたたいてくれ

潮なりが

きこえるだろう

おい わしの胸をたたいてくれ

海なりが

きこえるだろう

うしないたくない ふるさと

おお このには

わしらの海がある

暗い重い空に

太陽がのぼれば

ここはわしらの海

おやじも

そのまた おやじも

みんな この海で

生きてきた

わしらの朝は

太陽よりも さきに始まる

おお ゆくぞ わしらの海へ

おお ゆくぞ わしらの海へ

潮風をきって ゆけば

わしらの朝は

海から はじまる

わしらの海は

朝から はじまる

ひきあげる 魚は

海からあがる魚は

どれも はじける いきのいいやつ

どれも はじける いきのいいやつ

舟の舳先は 沖へ (沖へ 沖へ)

おお ゆくぞ (よおし いくぞ)

わしらの仕事場

魚のわく海へ

年がら年じゅう

わしらの朝は

太陽よりも さきに始まる

ふかい海

ふかい海の底から

魚のわく海の底から

わしらの朝は

はじまる

